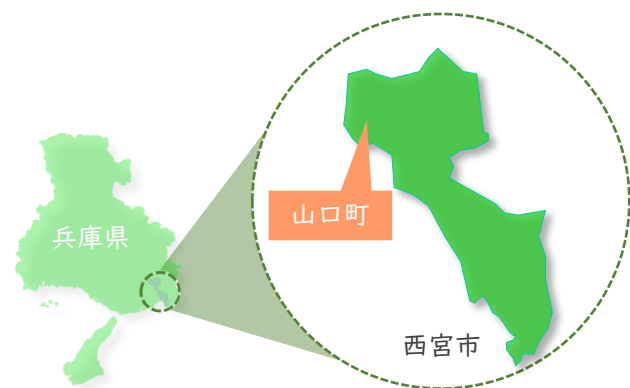


モリアオガエル保存会がめざすこと

私たちモリアオガエル保存会は、56年を超える保護活動（採集・飼育・放池）を通じて、モリアオガエルの繁殖地となるため池や、その周辺の自然環境を守り、次世代へと繋いでいきます。また、保存会が行った生態研究・調査によって得られた情報を元に、ため池の環境を改善し、我が町「山口町」の美しい森を後世に残すため、地域の方とともに歩んでいきたいと考えています。

この活動は子どもたちにとって、貴重な環境学習の場となっています。保護活動や自然観察を通して、モリアオガエルが教えてくれた生物多様性や生態系のあり方を考え、命の尊さを育むとともに、地域社会の一員として主体的に関わり続ける人材の育成を図ります。これからも持続可能で、開発的な人と自然のありかたを求めて

所在地・交通アクセス



～お車～
西宮北ICより約5分

～電車～
神戸電鉄「田尾寺」駅下車
タクシー 約7分
徒歩 約35分

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



30by30



西宮市立山口中学校 モリアオガエル保存会

〒651-1421
西宮市山口町上山口2-3-43
TEL: 078-904-0477
FAX: 078-903-5621



保存会HP



pro natura
Foundation Japan

公益財団法人 自然保護助成基金

この冊子は、公益財団法人自然保護助成基金
第34期(2023年度)プロ・ナトゥーラ・ファンド助成
によって作成されました。

モリアオガエル保存会ボランティアの軌跡



西宮市立山口中学校
モリアオガエル保存会

「モリアオガエルの郷」構想

西宮市立山口中学校モリアオガエル保存会
第3代会長 木戸 みどり
(西宮市立山口中学校第24代校長)

昭和43年(1968年)に本校理科部生徒が小さな発見をしたことから、環境保全を目的に、絶滅危惧種とされるモリアオガエルの保護活動を始めとなりました。平成28年度(2017年度)の理科部の廃部後、平成29年度(2018年度)より西宮市立山口中学校モリアオガエル保存会を立ち上げ、ボランティア活動として継承し、保護活動は56年目を迎えています。

山口町は、西宮市の北西部に位置し、春は桜、夏には蛍が飛び交い、秋は紅葉、冬は雪景色とほんとうに自然豊かな場所です。一方、この40年間を振り返ると、高速道路の開通と流通業務団地の誕生を背景に、宅地開発が進み、自動車交通の要の町として発展し、めまぐるしく環境が変わってきています。近年は、土地利用の変化の影響を受け、ため池がなくなり、モリアオガエルのすみかが消えていっています。

ボランティア活動のなかで自分たちが地域のためにできることを、自分で考えて行動することで、主体性が育成され、自己有用感をおぼえることにつながっていると実感しています。また、ボランティア活動は、生徒たちが地域の方とのふれあいを通じて、その良さに触れ、地域への思いを深め、人の温かさを感じることができる場となっています。モリアオガエルの保護活動を通して、母校愛・誇りなどふるさと意識の醸成や、美しく住みよい街「やまぐち」の一層の発展に貢献できることを願っています。

末筆となりましたが、本活動の継続に際し、公益財団法人自然保護助成基金第34期(2023年度)プロ・ナトゥーラ・ファンド助成によりご支援いただきましたこと感謝申し上げます。

令和6年(2024年)9月吉日

CONTENTS

はじめに「モリアオガエルの郷」構想	2
保存会のあゆみ	3
モリボラの軌跡	5
今、ため池が危ない!!	7
ため池の動物たち	9
ため池の植物たち	11
野外飼育に挑戦! ~飼育環境の向上~	13
モリアオガエルの生態・行動調査、はじまる。	15
モリアオガエルの郷構想	17
モリアオガエル保存会がめざすこと	19

保存会のあゆみ



保存会発足時のメンバー



保護活動50周年記念集会



初代池上会長と藤本先生



ひょうごユースecoフォーラム



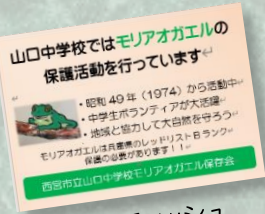
ビオトープ池のゴムシート張り



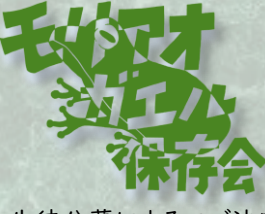
完成したビオトープ池の前で



絆まつりで活動紹介



啓発ティッシュ



生徒公募によるロゴ決定



阪急西宮ガーデンズ 実物展示



今の啓発ティッシュ



記念ステッカー



野外飼育の再開



発信器による行動調査



発信器をつけたオス



特別警報で放池が遅れ
小屋がカエルまみれに



さくらFMの取材



石碑・石像の除幕式



石碑・石像



ボランティア生徒が80名に



アルキナーレ 展示ブースの設置



西宮市理科生徒研究発表会

2017(平成29年) 理科部から保存会へ 2018(平成30年) ボランティア生徒の増加 2019(令和元年) 活動50周年集会 2020(令和2年) 文部科学大臣賞 2021(令和3年) 博報賞 2022(令和4年) 毎日地球未来賞 SDGsアワード 2023(令和5年) ざぶんSDGs大賞環境大臣賞 2024(令和6年)



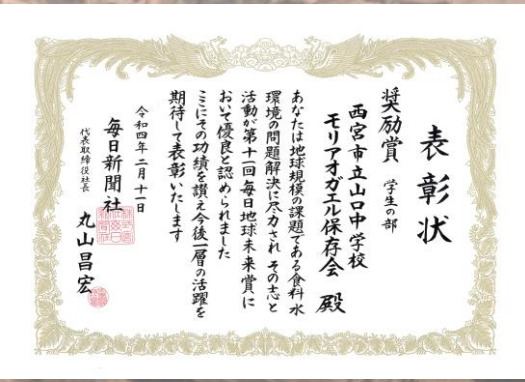
神戸新聞 2019.6



文部科学大臣賞 2020.5



ボランティアスピリット
アワード 2021.11



毎日地球未来賞 奨励賞2022.2



SDGs探究アワード
審査員特別賞 2023.3



ざぶん賞 環境大臣賞 2024.2



朝日新聞 2019.12



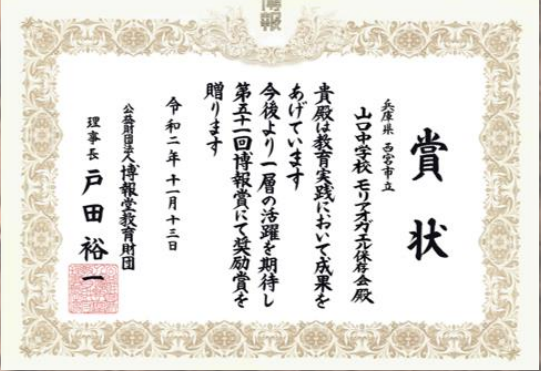
市長訪問 2020.7



教育長表彰 2020.2



兵庫県グリーンスクール
表彰 2020.12



博報賞 奨励賞 2020.11



兵庫県 ゆずりは賞 2022.2



ひょうごSDGsスクールアワード
最優秀賞2023.1



教育長表彰 2024.2

この絶滅危惧種 56年 ってヤツを守って やると決めたのさ。

次の50年を
めざして



理科部がモリアオガエルの保存活動を始めた49年目、終止符を打とうとしていたその時、保存会が発足して命を繋いだ。

あれから7年の歳月が経ち、56年目を迎えた令和6年。保護活動は、分岐点に立つ。



—想いはそれぞれ—
いろいろ野望はある。でも、

「オタマジャクシは好き。
だけど、カエルは嫌い。」

「池にヌマった。」

「とにかく自然に抱かれない。」
と意気込む。

ユニークな奴らは
他にも何やら忙しく、
いろんな活動を兼ねている。

もはや
全員集合することの方が
皆無であり奇跡。



全校生の
5分の1人
完全奉仕活動



毎朝・毎夕、卵塊に霧吹きかけて1週間。チキンライス味のベビーフードを与え続けて1ヶ月。そりゃ勝手に愛着もわきますよ。

元の池に戻すときは、やっぱりさみしい。でも、心のどこかで
「来年、またここで会おうな」
って再会を誓う。

ほうち
放池一筋
11万匹。
誰や。「タピオカや」って
いったヤツ。食べられへんで。



14の絶滅危惧種

会えなくなる日がやってくる。
自然まかせにしていれば。
そして、誰も、何もしなければ。

モリアオガエル
セトウチサンショウウオ
シャジクモ
ニホンヒキガエル

の軌跡
モリボラ



今、ため池が危ない！！

山口町は、遠景で眺めれば、今も変わらない豊かな森がたくさんあるかのように見えますが、人との関わりを失ってしまった池は荒廃し、その存続が危ぶまれています。池の地権者の理解や協力を得ながら、外来生物の駆除も課題として残っているため、学校の活動には限界があります。今後は山口地域の諸団体との連携を深め、自然環境を推し量る“バロメーター”としてのモリアオガエルを、今後も注意深く見守っていきたいと考えています。モリアオガエルは、岩手県、福島県では天然記念物となり、奈良県では絶滅寸前となっています。兵庫県内各地で同様な問題が頻発すれば、やがて彼らの住処が失われてしまうことは間違いありません。

3 水資源の枯渇

最近の異常気象で、何日も連続で雨が降らない年が続いています。とうとう船坂地区の池では、六甲山からの湧き水が届かない年がありました。しかし不思議なことに、この年70個以上の卵塊を発見しました。今では池の管理者のご理解・ご協力で、池に水が戻っています。



4 損壊

有馬温泉へのバイパス建設時に、半分の大きさになった中野地区の池では、原因不明の大きな穴が空いてしまいました。なんとか池の持ち主の許可を得て、水止めの緊急作業を行いました。また、いつ穴が空いてしまうか分かりません。今後、大きな工事が必要になっています。



1 土砂崩れ

毎年の台風到来や大雨によって、土砂が入り込んでいます。特に船坂地区の池では、池の約9割が埋め尽くされ、かろうじて水たまりのようになってしまった池に卵塊が産み付けられています。同じ絶滅危惧種のアカハライモリの存続も危機的です。



2 倒木

どの池でも、台風による暴風や地盤がゆるくなったことで、大木が根こそぎ倒れてしまっています。いつ崩れるか分からない危険な状況であり、保護活動に影響するだけでなく、池の草地化を早めたり、護岸を決壊させてしまいます。



5 草地化

毎年必要な管理がされなくなってしまった池は、湿地のようになったあと、草木が覆い茂って水辺がなくなっています。中野地区の池は、かつて10カ所ありましたが、現在では半分の5カ所にまで減少しています。



6 土地の開発

池周辺で行われる土地の開発で、森が失われています。高木が無くなり、池が直接日光にさらされると、水資源の枯渇を早めるだけでなく、動植物の環境が激変し、在来種が住めなくなることが心配されています。



ため池の動物たち

哺乳類

夜行性の生き物を中心に6種が確認されています。特に、特定外来生物に指定されているアライグマは、木登りが上手で、頻繁に池に出向き、モリアオガエルを補食している様子がセンサーカメラで撮影されました。



イノシシ



ホンDIGツネ



アライグマ



センサーカメラで撮影
上：船坂V池 下：中野M池



ホンDIGタヌキ



ハクビシン



ヒミズ

鳥類

鳥たちは移動範囲が広いので、池だけでの限定はできませんが、採集や調査でため池を訪れると、おおよそ10種程度が頻繁にさえずっている姿がありました。そのうちの代表例です。



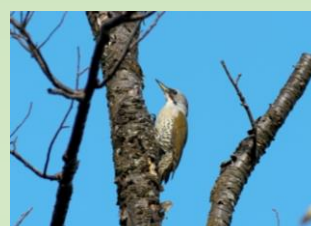
ホトトギス



メジロ



ハクセキレイ

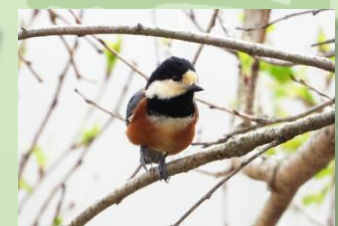


アオゲラ

兵庫県RD Cランク



カワセミ



シジュウカラ



ヤマガラ

爬虫類

六甲山系には、他にもアオダイショウなどが見られますが、山口町のため池で見られる主な爬虫類は7種です。毒を持つヘビも出現するため、下草刈りなどで活動中の遭遇機会を減らす必要があります。



ニホンマムシ



シマヘビ



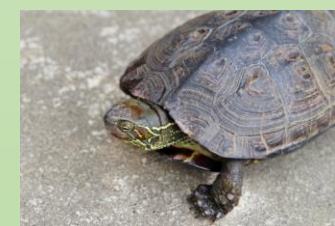
ニホンカナヘビ



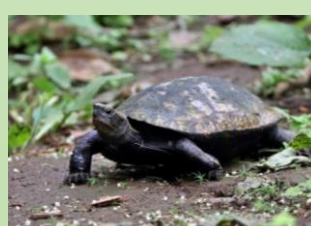
ヤマカガシ



ニホントカゲ



クサガメ



ニホンイシガメ

兵庫県RD Cランク

両生類

ため池の周りでは11種が見られます。そのほとんどが兵庫県版レッドリストにあげられ、天敵であったアカハライモリも数を減らし、「要注目種」としてあげられています。



モリアオガエル



セトウチサンショウウオ

兵庫県RD Bランク



シュレーゲルアオガエル



ニホンアカガエル



タゴガエル



ニホンヒキガエル



ヤマアカガエル



アカハライモリ



トノサマガエル



ニホンアマガエル



ウシガエル

昆虫等

要注目種のホタル2種を含め、水系に馴染みのあるトンボが多く見つかっています。ここでは掲載しきれないため、代表的な種を掲載しています。



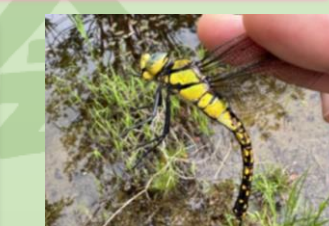
ヘイケボタル



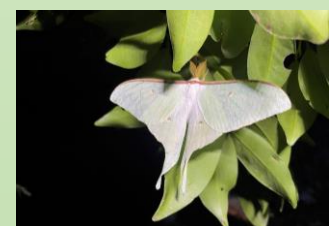
ヒメボタル



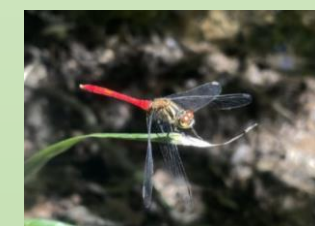
オオアオイトトンボ



クロスジギンヤンマ



オオミズアオ



マユタテアカネ



ショウジョウトンボ



マルタニシ

兵庫県RD Cランク

魚類

池干しなどで定着しておらず、川に由来する水系で暮らしています。



アブラハヤ

兵庫県RD Cランク



カワムツ

今後も引き続き、ため池周辺の生き物調査を継続して、山口町の生物多様性がどのように変化しているのかをウォッチングしていきます。

ため池の植物たち

今回掲載している動植物は、モリアオガエル保存会が野外での活動期間中（5月下旬から8月上旬）に発見したものです。限られた時間の中での調査のため、全てを網羅したものではありません。

モリボラの軌跡

 卵塊マーク:モリアオガエルの卵塊が産みつけられる樹木

高木層

ため池の周囲は、たくさん的高木・垂高木が茂っています。池の管理を主とする池なら、普通伐採されてしまう木々も、池の管理者のご理解で大切に残されています。



アベマキ



ザイフリボク



マルバアオダモ



スギ



タカノソメ



タムシバ



エゴノキ



ウリカエデ



ヤブツバキ



ソヨゴ



ヒメヤシャブシ



モウソウチク

低木層

春に花咲く樹木を中心に池周辺に繁茂しています。高木層の樹木が日光を遮っているため、徒長したり、生育は遅めですが、モリアオガエルが卵塊をつける種も見られます。



モチツツジ



コバノミツバツツジ



コアジサイ



ヒイラギ



クロモジ



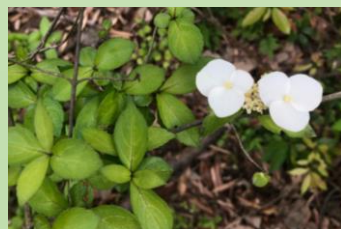
キガンピ



ヒサカキ



コウヤボウキ



コガクウツギ



ネザサ



アセビ



アオキ

草本層

ため池から少し離れた木漏れ日の中に、里山の自然がたくさん残っています。増水期のため池周辺は湿度が保たれていることから、湿性の植物も見られます。



オカトラノオ



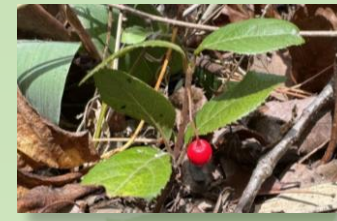
ホタルブクロ



ユウガギク



リュウノギク



ヤブコウジ



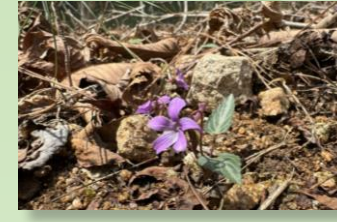
ナガバモミジイチゴ



ニガイチゴ



ササユリ



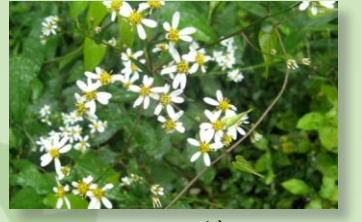
ヒナスミレ



キンミズヒキ



ミズヒキ



シラヤマギク



コシダ



ベニシダ



ウラジロ



ギンリョウソウ

水草層

ため池の中には絶滅危惧種が多く見られます。開発や宅地化でため池が失われたことにより、今あるため池が「種の保管庫」の役割を果たしています。



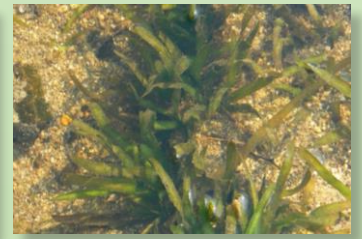
フトヒルムシロ



シャジクモ



イトモ



セキショウモ

兵庫県RD Bランク

この7年間で、植物相が大きく変化することはありませんでしたが、ため池の環境に依存する植物たちの今後は心配されます。そこで学校のビオトープ池では、池の持ち主のご理解を得て、万が一池が干上がってしまったときのために水草や植物を移植し、「生息域外保全」を進めています。

野外飼育に挑戦! ~飼育環境の向上~

「野外のモリアオが大きいのはなぜ!?!」

「卵塊の中でオタマジャクシはどうやって成長しているのか?」「後ろ足(後肢)の生え方は?」「人工飼育より、自然界のオタマジャクシが大きいのはなぜ?」など、分からないことはたくさん。生徒の疑問がきっかけで、学校にビオトープ池を作り、これまでよりもさらに細かい観察・研究が始まりました。



ため池で発見した、モリアオガエルの成体が、モリアオさん家で育てたものよりも大きい!
この発見をきっかけに、みんなでビオトープをつくって、この謎を解明できないかという事になりました。成体に対する探究と、飼育方法の向上に向けたチャレンジの始まりです。

船坂の池で見つけた成体

色が濃だけでなくこの大きさになってもまだシッポがあります

ビオトープでも体が大きくて色が黒い!



ビオトープ池
エサ無し



モリアオさん家
エサ有り

モリアオさん家
池の落葉のみ



データロガー
上:センサーカメラ
下:温度・湿度計

ビオトープ 生物一覧 (50音順)				2024.9
昆虫類	哺乳類	草本		樹木
アメンボ	アライグマ	アオガヤツリ	タカサブロウ	アラカシ
エンマコオロギ	イタチ	アカバナユウゲショウ	チチコグサモドキ	イロハモミジ
オオシオカラトンボ	ハクビシン	アキノエノコログサ	ツワブキ	エゴノキ
オニヤンマ	ホンドタヌキ	アゼナルコ	ニシキソウ	カナメモチ
キマダラカメムシ	ホンドキツネ	アレチヌスビトハギ	ヌカキビ	ガマズミ
クロスジギンヤンマ	鳥類	アレチハナガサ	ネザサ	カワヤナギ
シオカラトンボ	イソヒヨドリ	イモカタバミ	ノラニンジン	コアジサイ
ショウリョウバッタ	キジバト	エノコログサ	ハマハナセンブリ	コナラ
ハグロトンボ	スズメ	オオイヌダデ	ヒメコバシソウ	サルスベリ
マツモムシ	ソウシチョウ	オオバコ	ヒメジョオン	シナレンキョウ
マユタテアカネ	ハクセキレイ	ガガイモ	ヒヨドリバナ	シラカシ
ミズカマキリ	ハシボソガラス	カヤツリグサ	ヒルガオ	ソメイヨシノ
ヤマトシジミ	ヒヨドリ	ギョウギシバ	ヒレタゴボウ	ソヨゴ
ヨコズナサンガメ	メジロ	キンエノコロ	ブタナ	マルバアオダモ
リスアカネ	爬虫類	クサネム	ヘクソカズラ	ミズキ
貝類	カナヘビ	クスタマツメクサ	ホウキギク	モチツツジ
モノアラガイ	ヤマカガシ	ケイヌビエ	メハジキ	ヤブツバキ
	両生類	コゴメイ	メヒシバ	ヤマボウシ
	アマガエル	コゴメガヤツリ	メヒシバ	ヤマモモ
	トノサマガエル	コマツヨイグサ	メリケンガヤツリ	ユズリハ
	魚類	サンジャクパーベナ	メリケンカルカヤ	水草
	メダカ	シマスズメノヒエ	ヤナギタデ	ガマ
	動物34種	シャグマハギ	ヤハズソウ	シャジクモ
		シロツメクサ	ヤブマメ	フトヒルムシロ
		スズメガヤ	ヨモギ	植物73種

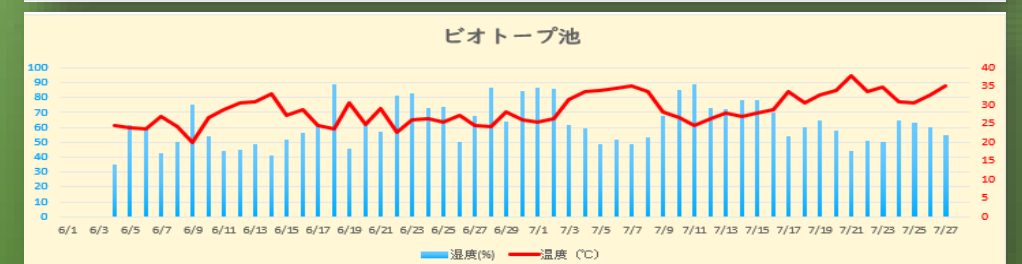
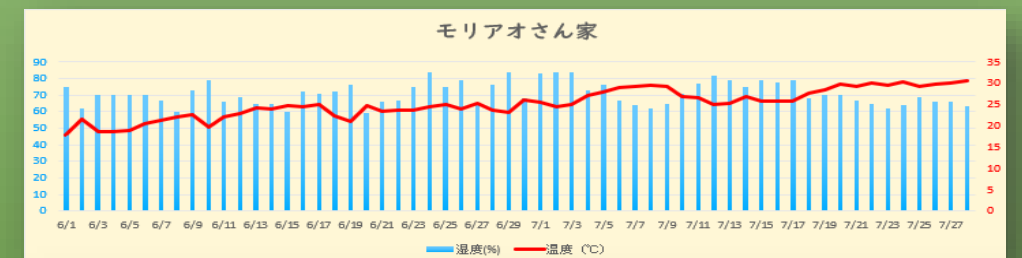


使われなかった
外水槽を埋めて...



ビオトープ池に忍び寄り
特定外来生物
オオカワヂシャ

モリアオさん家では、温度・湿度が安定してはいるものの、1ヶ月を通じて室温が高すぎる事が分かりました。改善が必要です。



モリアオガエルの生態・行動調査, はじまる。

彼らは、池に水がないのに、どうして卵塊を残したのか？

船坂のため池で事件が起きる。「毎年やってくる水が来ない」。モリアオガエルの産卵最盛期に、池底が完全に顔をのぞかせる。しかしそこには、例年に近い数である76個の卵塊が、枝も撓わに実っていた。

命のリレーは絶たれるのか

「私らも困ってるんです。今はなんとか汲み上げた水で田んぼに水入れてんのやけど、池のカエルさんまでは間に合いませんねん。」池の管理者も、初めての渇水にお手上げのようだった。保存会の活動に好意的であっても、本当にどうにもできない。



「今年もか・・・」様々な理由で失われるため池。また、大切なため池が1つ消えてしまい、「彼らにはもう会えなくなるのか」という想いが頭をもたげ、池への想いが遠のく。それでも何かに背中を押されながら、7月の山道を登ると、見えてきた景色に生徒は驚嘆した。

「なんでやねん！水がないのに！」目の前にはあり得ない景色が広がる。池に水がないのにもかかわらず、多くの卵塊がフルーツのように実っていたからだ。



モリアオガエルの“教科書”には、「メスは数匹のオスを引き連れて、池の水面に張り出した枝に卵塊を産む」とある。しかし、この池での出来事を解明する手がかりは見つからない。全く水のない池に卵塊を残したのは、彼らが持つ帰巢本能がもたらした産物であるのか。それとも、予期せぬ事態にモリアオガエルが対応できなかった結果か。疑問は晴れぬまま、数個の卵塊を持ち帰った。今後の活動で、この問いが明らかにできることを願う。



モリアオガエルはどこに行ったのか

令和3年(2021年)の7月。船坂の池が土砂崩れのため、池の1つがなくなろうとしていた。(写真中央下)すぐに復旧工事が行われたものの、池の水はいつまでも濁ったままで、少しずつ池の範囲は狭められ、アカハライモリが窮屈そうに漂っていた。

そんな中、工事関係者から「モリアオガエルの生息域を壊さないように、復旧作業を進めたい。彼らの生息範囲はどれくらいなのか？」という問い合わせがあった。論文や文献には「最大200m程度移動する」という記載があったが、記録は古く、山口町のもでもない。そこで、発信器を取り付けた行動調査をしようという事になった。



令和6年(2024年)公益財団法人自然保護助成基金第34期(2023年度)プロ・ナトゥーラ・ファンド助成を受けたこと、ちょうど1g発信器が開発され、モリアオガエルのような小さな両生類でも発信器が使えるようになったことで、今回の調査が可能となった。モリアオガエルが池周辺から姿を見せなくなる7月下旬から8月にかけての2週間の間、6匹のオスと2匹のメスの成体に発信器を取り付けて調査を行った。



結果は予想に反し、最大656mも移動していることが分かった。また、池から移動した後、数日間ほぼ同じ場所に留まり、大きな移動が見られなかった。今回の調査はゴルフ場と県道に挟まれた長細い森であったため、電波を受信しやすかったが、私有地をまたぎ、道のない森の中を移動する事ができず、およその位置特定に留まった。更に詳細な調査を進めるためには、周辺の土地所有者の許諾が必要となり、今後の行動調査計画を再考する必要がある。

モリアオガエルの保護活動をしているからこそ緑地の奥にまで踏み入り、環境を見続けることができています。また、生徒の疑問から様々な探究課題が生まれ、モリアオガエルを通して地域の自然環境を見守る意識がたくさん芽生えている。

保存会を発足した当初は思いもよらなかった生徒の心の醸成が育まれているのである。



図中の丸数字は調査開始からの経過日です。
許諾番号: PL2103 © INCREMENT P. CORP.

モリアオガエルの郷構想

“次の50年”を見据えた活動を展開するために

保護活動が50周年を迎え、この活動がますます地域に根差して行くことを記念し、次の50年を見据えた、モリアオガエルの郷構想を策定するとともに、ここに記念碑を建立する。

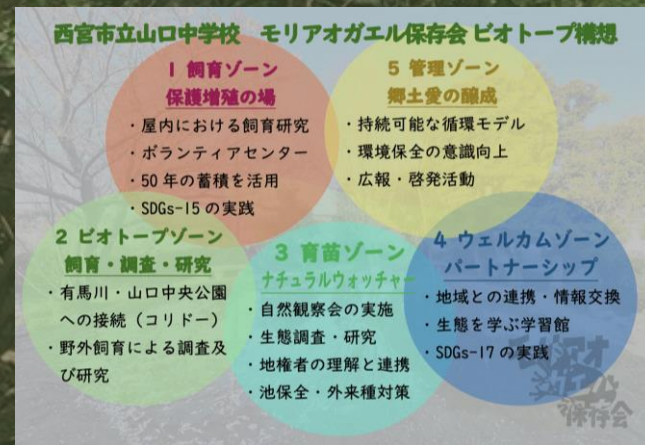
—石碑 碑文より—

シンボルを残す

活動50周年を迎えた翌年の令和2年(2020年)、これまでの活動を象徴する石碑の除幕式を行った。校内には50年を超える活動を伝える“証人”がなく、活動のシンボルとして、また、生徒がそれぞれの場所に安心安全に「帰る」事を願い、正面玄関に設置された。



さらに、これまでの50年の歴史を、途切れることなく後世に引き継いで欲しいという願いとともに、「モリアオガエルの郷構想」を策定した。構想の必要性は、世界的に猛威を振るった、新型コロナウイルス時代を乗り越え、時代の潮流に合わせた保護活動や活動計画が必要とされていたことも相まっている。これで生徒が主体的に環境問題に向き合い、学べる場が約束されたのだ。



ビオトープを環境学習の拠点に

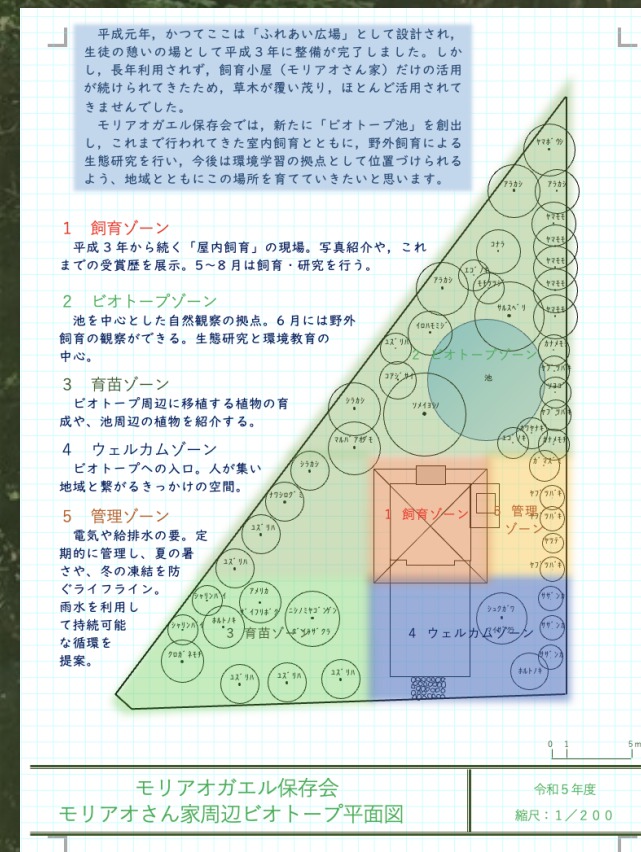
保存会の活動拠点である飼育小屋「モリアオさん家」は、当時、室内飼育をする5~7月以外、全く利用されない期間限定の施設であった。平成元年(1989年)、この施設周辺は、「ふれあい広場」として整備され、生徒の憩いの場となっていたが、時代とともに利用されなくなり、モリアオさん家以外の周囲は、グラウンドの資材が散在し、雑草が覆い茂るだけの場所になっていた。

そこで、この施設周辺を「環境学習の拠点」とするべく、東側の平地にビオトープ池を作り、かつて行われていた野外飼育のできる環境作りが始まった。ゾーニングを行った後(右図)生徒の手作業によって除草・整地、掘削・ゴムシートの敷設などを行い、現在のビオトープ池が完成した。周囲の植

物は、モリアオガエルの棲むため池の環境と同じになるよう、兵庫県産樹木を植樹し、池の中は、この池の変化が分かりやすくなるよう、有馬川から採集したメダカ10匹と船坂のため池から採集したフトヒルムシロ3株を定植した。令和6年(2024年)9月現在、ビオトープ池で見られる生物は、駆除した特定外来生物を含む動物34種、植物74種、合計108種を確認している。

地域とともに歩む活動へ

コロナ禍により停滞していた「地域との共同活動」が少しずつ進められている。PTAとの協力や連携、トライやる・ウィークでお世話になっているダイハツ工業とは、ビオトープ活動を中心とするCSR活動の交流が継続している。また、10月の山口地域活性化推進委員会主催の「アルキナーレ」では徳風会館においてパネル展示を行い、ため池の地権者との相互理解も深まってきた。さら



に、小学生にも保存会活動を体験してもらえよう!と題して、企画が進められている。



モリアオガエルの保護活動のみならず、ため池の維持管理や保全など、山口中学校だけではどうにもならない課題は多岐にわたり、モリアオガエルの郷構想は分岐点に立っている。さまざまな課題を克服すべく、今後は環境省が推進する30by30(サステイナバイサステイ:2030年までに国土の30%以上を自然保護エリアとして保全する取り組み)を目標として、モリアオガエルの棲む山口町の自然環境全体を「自然共生サイト」として登録をめざしたい。



全国的な少子化の波は、山口中学校も例外ではない。学校の運営が難しくなる中、これまで以上に地域と連携し、モリアオガエルが教えてくれた、たくさんの財産を元に、学校、地域の魅力を高めていきたい。そのために、今後も様々な企画を通じて、交流の輪を広げていきたい。